

平成 31 年 2 月 26 日 (火) 学校運営協議会

平成 30 年度 学校評価アンケートについて

【生徒】

○全体に関わる内容 (1)

「学校では安心でき,楽しく過ごせる」 9 3. 9 ⇒ 9 3. 5

① 確かな学力に関わる内容 (2~6)

- 5 新学習指導要領において「主体的, 対話的で深い学び」が言われているなか, 全ての教科, 領域で小集団を活用した学習が組み入れられている。しかしながらその話し合いや議論がどれだけ「学び」につながっているかの検証, 研究が求められている。現在, スクール形式での講義調がよくないかのような風潮があるが, ときにしっかり教え込むという面は大切にしていきたい。
- 6 家庭学習については, 3割強の生徒が「あまりそう思わない」を選んでいる。定着を図る必要がある生徒を焦点化した個別の取組が求められる。それ以外の生徒についても言えることだが, 家で学びたくなる, 授業の在り方, 興味を持てるようにする工夫など教える側の課題もある。また, 小学校に比していわゆる宿題というものは少ないが, 自主的に学ぶという姿勢は学校と家庭ともに指導していく必要があると考える。

② キャリアの視点 (7)

- 7 昨年度から行った, 「松中ワーキング・ビジョン・トレーニング」においては, 以下のように考え今年度も取組を進めた。

…学校での事前学習の一つに「働いている人に聞こう」というプログラムがあります。また, 学校運営協議会では, 学校支援の一つとして「仕事を通しての地域と生徒の交流プログラム」を検討してきました。目的を同一にする第1学年教職員と学校運営協議会の共催として, 地域の方を講師にお招きし実施します。

仕事の魅力や苦労, 社会的な役割, 必要な適性や能力などを直接子ども達に語っていただき, 子ども達の率直な疑問に答えていただき, 子ども達が職業を通じて地域の方と交流する中で, 自分らしい生き方・働き方を考え, 将来につながる視点で進路の計画を立て, 自分づくりをしていく一つの機会とすることを目的としています。

1年生ではこの後「ファイナンスパーク学習」、2年生では、「職場体験」を行い、3年生では進路決定という流れで取り組んでいる。どこの高校に進学するかを決める際に「どう生きるか」というキャリアの視点を意識させていくことをさらに進めていきたい。

③ 部活動、生徒会、学校行事に関わること（8～10）

8, 9, 10 前期に比べても充実感があると答えている割合が増えている。後期には「学校祭」の取組があり、例年この傾向は強い。大きな行事が大切なことは言うまでもないが、日常の地道な取組にも目を向けるべきである。

④ その他（11～25）

13 「挨拶励行」については、年度当初から校長をはじめ、折あるごとに話しているが、いまだに15%が「あまりそう思わない」「そう思わない」ということが課題である。教職員自らがどうなのか、という点を含めて学校運営協議会、地域生徒指導連絡協議会等でも話していく意識を高めていく必要がある。

16 12.8%については、常にアンテナを張っておく必要がある。生徒指導委員会、教育相談係会においては、昨年度よりさらにきめ細かに取り組んでいるが、日々の忙しさで「報告・連絡・相談」が抜けることもある。いじめや嫌がらせを起こしにくい学級、学年、学校の雰囲気を醸成していく。そのための「道徳」の授業の意義も大きい。

17 スマホ、SNS等については学校と家庭のみならず、警察等外部機関の啓蒙など社会が一体となって取組を推進することが求められている。挙がってくる問題行動の多くがこの使用から始まっている現状であることから喫緊の課題として学校体制で取り組む必要がある。

18 「正しい生活習慣」が身についていないとする生徒が3割近くいる状況については、保健室との連携はもちろん教育活動の基盤として取り組んでいく。

19 前期には13%、後期には9.9%であるが、看過できない数値として捉えている。親はどうあるか教師はどうか、友人等など「相談できる人」の存在は不可欠である。「いじめアンケート」も年間2回別に取っているが、素早く対応することが必要であることは言うまでもない。

20 本校も33年経過する中いろいろな場所が老朽化、破損している。産業廃棄物も多々あ

る状況中少しづつ取組を進めている。管理用務員の力も大きく、校内の木の伐採は 1 月末で終了した。外部からのお客様の指摘では、トイレや廊下のベンキ、溝蓋破損、砂がたまっていることなどあげればキリがない。「おやじの会」や長期休業前などに PTA と協力して取り組んでいきたい。

21 読書については、国語科のみならず全教科領域で取組を進めてきたが、目立った成果は出でていない。今後は、図書室の有効活用に合わせて各種作文コンクール募集など積極的に推進していく。

22 毎日更新している HP や学級学年便り、月 1 回発行の松尾だよりなどがあるが、19% が「わかりやさくない」、とする中、常に内容精選、吟味が必要である。

24, 25 19 とも一部関連しているが両方とも 16.9%, 9.3% あることについては、教職員で共通理解していくとともに減少に向けてたゆまぬ努力が肝要である。

- ・朝の出欠点検時の様子
- ・いじめアンケート後すぐに学年打ち合わせ
- ・通常の学年会時の情報交換
- ・部活動顧問との連携

【保護者】

○全体に関わる内容 (1)

「学校では安心でき、楽しく過ごせる」 94. 2 ⇒ 95. 9

① 確かな学力に関わる内容 (2~6)

3, 5 年度を通して平均 17.25% が出来ていない状況は看過できない。教科によってバラツキがあるので個別にも指導していく。ただ、授業の中に小集団活動を基本的に取り入れているのでその面は一考する必要がある。

4 基礎基本が何なのかという定義もあやふやであるとも言えるが、3割以上の保護者がそう考えていることについて検証が必要である。

6 家庭学習に塾等を入れているかどうか質問そのものを変えていく必要もあるが、テスト前以外の日常の学習の大切さを指導していくことが肝要である。

②キャリアの視点 (7)

7 新学習指導要領の趣旨に則ってもこの部分は非常に重要である。3年間を見通した取組の成果とも言えるが、さらに学校体制で推進していきたい。

② 部活動、生徒会、学校行事に関わること (8~10)

8, 9, 10 部活動入部率は 87.3% (5 月時点) で非常に高い。ハンドボール (100 人前後) や吹奏楽 (60 人前後) などに見られる特徴として、競技等に関わる意識の格差はある。概ね理解は得ていると思われるが、「部活動ガイドライン」に従い、意識変革が求められる。生徒会活動や係活動については、学校祭など大きな行事と日常の活動の両面から見る必要がある。ここだけの問題ではないが、「働き方改革」の視点からも従来取り組んでいたことの踏襲ではなく、ねらい、目的を明確にして新たな視点で取組を構築していかねばならない。

④ その他 (11~25)

13 「挨拶励行」については、機会あるごとに学校長が話している。教職員自身が率先遂行していく意識をさらに持つことが肝要である。

17 35.9%が「出来ていない」というのが課題である。学校との連携は必要であるが、保護者として何が出来るかしなければならないか検証していく必要がある。

19 最近のさまざまな「虐待」に関わるニュースを鑑みても、「出来ている」と答えていても常にアンテナを張って行くことが大事である。部活動をしている生徒は、普通 8 時から 17 時まで学校生活をしていることから学校の責務は大きい。家庭とのたゆまぬ連携が子供を守ることに繋がるということを再認識することが第一歩である。

21 読書については、大人が見本を見せることが一番の近道であると考へている。

23 災害等の一斉配信含めて、メーリングリストの導入を考えている。

24, 25 思春期の子供たちに対する大人の関わりについては、難しい側面があるからこそ学校・家庭・地域が子供を中心として「どう関わるか」「何が出来るか」等意識を持って取組を進めることが大切である。